

経営比較分析表（平成28年度決算）

東京都 稲城市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	公共下水道	Bb1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡ ³ 当たり家産料金(円)
-	該当数値なし	99.03	94.23	2,030

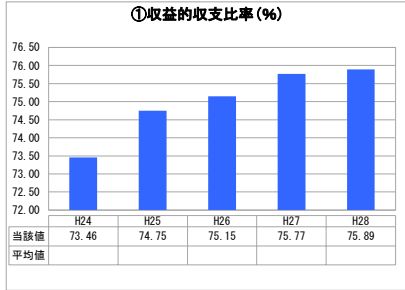
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
89,089	17.97	4,957.65
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
88,481	10.61	8,339.40

グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）

【】 平成28年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



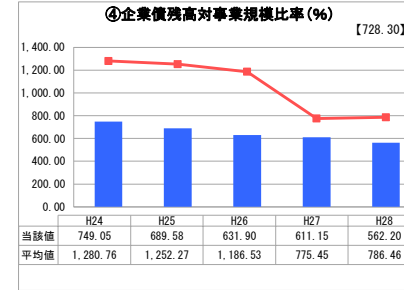
「単年度の収支」



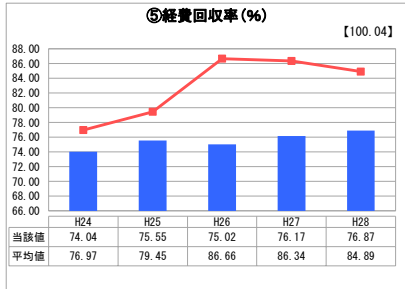
「累積欠損」



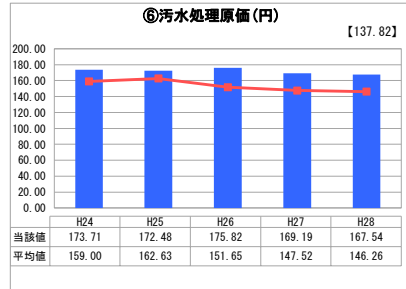
「支払能力」



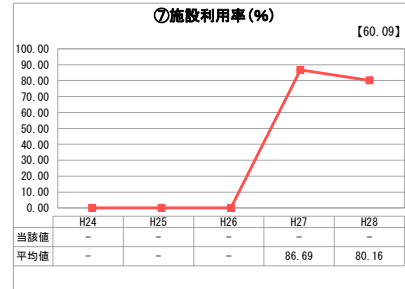
「債務残高」



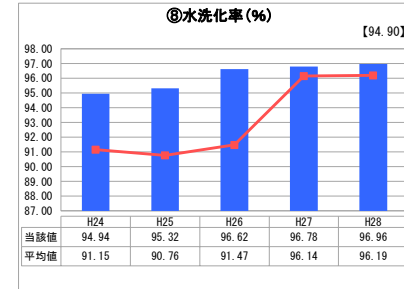
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

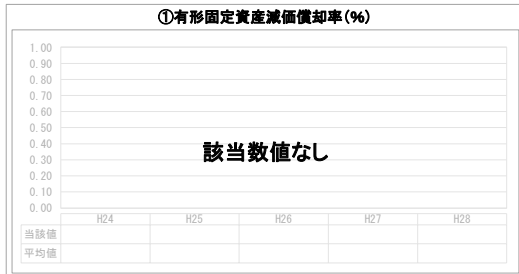


「施設の効率性」

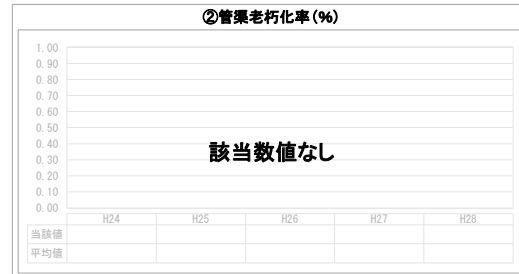


「使用料対象の捕捉」

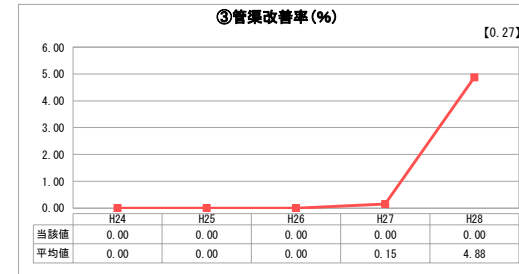
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析概

1. 経営の健全性・効率性について

①「収益的収支比率」につきましては、対前年度で0.12%微増し引き続き増加傾向にありますが、黒字収支の100%に達しておらず、経営改善に向けた取り組みが必要です。

④「企業債残高対事業規模比率」につきましては、企業債の償還が進んでいること、営業収益が微増となったことから引き続き減少しています。

⑤「経費回収率」につきましては、使用料収入は増えていますが、既設管渠の維持管理で汚水処理費も増額となったため、対前年度では0.7%の伸びとなり引き続き増加傾向にあります。経営改善に向けた取り組みが必要です。

⑥「汚水処理原価」につきましては、対前年度で汚水処理費は増額しましたが、水洗化率の伸びに伴い、年間有収水量が増加したため、1.65円下がりました。

2. 老朽化の状況について

昭和56年度から稲城市の公共下水道事業が始まり、耐用年数（50年）を超過する污水管はありません。市では毎年污水管やマンホール等の下水施設の点検や清掃を行い、適切な管理を行っています。また今後、施設の老朽化に計画的に対応するため、第四次稲城市長期総合計画期間内に下水道維持管理計画を策定します。

全体総括

稲城市では公共下水道の整備区域拡大を図ると共に、供用開始区域の下水道接続の促進を行っています。水洗化率の上昇から有収水量の増加が見込まれること、企業債償還金が減少することで汚水処理費が減額することから、経費回収率の上昇は見込まれます。今後、施設の老朽化の対応を含め持続可能な下水道事業を行っていくためには、安定した収入が必要であり経営改善に向けた取り組みが必要です。平成31年度から地方公営企業法を一部適用し、健全な経営を行っていきます。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。